

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 15 日現在

機関番号：33804

研究種目：若手研究（A）

研究期間：2009 ～ 2012

課題番号：21689055

研究課題名（和文）精神科看護師を介在した児童・思春期のメンタルヘルス教育の開発に関する研究

研究課題名（英文）A study of development and evaluation of mental health education with Psychiatric nurses collaborating in childhood and adolescence

研究代表者

篁 宗一（TAKAMURA SOICHI）

聖隷クリストファー大学・看護学部・准教授

研究者番号：60362878

研究成果の概要（和文）：

早期介入を目的として、精神科看護師ら精神保健専門職と協働して小学生を対象としたメンタルヘルス教育を開発し、効果を測定した。小学6年生の115名を対象に調査した。過去一年間に悩みを抱えた者は52.8%と多かった。対象者を二群に分けて、教育プログラムの有無によって教育効果を測定した。介入群では知識尺度で介入後の得点の上昇が有意にみられた。ストレスコーピングの「サポート希求」の項目にも有意な変化がみられたことから、教育には対象者が悩みを抱えた際の相談につながる効果があることが示唆された。

研究成果の概要（英文）：

We developed a mental health education for children and adolescents in which psychiatric nurses and mental health professionals collaborated, with the purpose of early intervention, and evaluated the effects of the program. We surveyed senior children in the upper-grade of elementary school. A high number of them (52.8%) felt distressed at some point in the year. The students were divided into two groups, an intervention and a control group, and we evaluated the effects of our education program. “Knowledge of mental disorders” and “Knowledge of consultation places” significantly increased the average score in the intervention group. We found that knowledge improves through education. The item “help-seeking for support” in the Stress Coping Scale also significantly increased. This score transition of scales indicates that students would consult with someone when they are distressed in the future.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	2,700,000	810,000	3,510,000
2010年度	1,700,000	510,000	2,210,000
2011年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2012年度	1,700,000	510,000	2,210,000
年度			
総計	7,100,000	2,130,000	9,230,000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・地域・老年看護学

キーワード：早期介入、精神保健、児童・思春期

1. 研究開始当初の背景

(1) 児童・思春期は心理的な成長に伴う発達

危機を迎え、精神的に不安定な時期である。またその時期は精神障害の初発期でもある。

こうしたメンタルヘルスの問題への対応は、早期介入による効果が大いいとされる。しかし教育現場におけるメンタルな問題への対応は、遅れがちで教育的な予防的介入プログラムの実施は少ない。本研究は（篁 H18-20年度：若手 B）を基にメンタルヘルスプログラムの再構成を行い、教育の開始時期と教育手法および内容を変更する事で、さらに発展的に早期介入に関する効果を高めようとするものである。

2. 研究の目的

(1) 地域の精神看護師らの精神保健専門職と連携して、児童・思春期に対するメンタルヘルス教育プログラムを開発し、その効果を探ることとする。

3. 研究の方法

以下の項目を行った。

(1) 小学生版の教育プログラムの開発

① 実施（開発・教育実践）体制のための組織化：精神保健の専門家および大学生による組織化した研究会を構築した。

② 教育プログラムの作成：既存の小学生高学年向けメンタルヘルス教育プログラムを活用し、改訂して低学年への教育を作成した。なお教育に先立って作成資料を集めるため児童を対象とした専門職者にヒアリング調査を行い、プログラムを再構成した。また精神科看護師、児童相談所の職員らと研究会をベースに議論しながら、複数の教育プログラムを作成した。学年進行に沿って実施できるように複数の教育のパターンを開発することとした。

(2) 教育効果の検討

上記の過程から開発されたメンタルヘルス教育プログラム（Ⅰ～Ⅳ）のうち、Ⅰのプログラム評価を行うこととした。生徒を介入群と対照群に分けて介入前後にアンケート調査を実施し、教育を評価した。了承を得た A 県 B 市の小学校 2 校 (a, b) の 6 年生児童を対象とした。メンタルヘルス教育は 45 分を 1 限とし、2 限続けて行った。効果を評価する内容は、小学生用ストレスコーピング尺度、精神疾患の知識、悩みを相談できる場所についての知識、とした。また精神保健に関する援助の必要度を探るために基本属性、精神疾患や悩みを相談出来る場所についての知識、を尋ねた。分析には SPSS12.0J を使用し、基本属性の割合を χ^2 検定と Mann Whitney の U 検定で比較し、介入群と対照群について介入前後の平均点を t 検定で比較した。なお本研究は、前任校である東京医療保健大学の倫理審査委員会の承認を得て行った。

4. 研究成果

(1) 教育プログラムを 4 パターン作成した（Ⅰ

～Ⅳ）。なお基本的な教育内容はⅠにあるが、その効果評価（②に記載）を受けながらⅡ～Ⅳの改訂版を作成し、さらにそれを用いて実践後、加筆修正を加えるというプロセスを経た。

パターンⅠの教育内容：メンタルヘルス教育は 45 分を 1 限とし、2 限行った。1 限目はストレスやうつ病など精神疾患、2 限目は医療機関など相談できる場所や人をテーマに情報提供し、学生によるロールプレイなどを行い、参加型・体験型の講義を展開した。

パターンⅡの教育内容：A では対象の年齢に対してやや難易度が高いという教育関係者の意見を考慮し、寸劇を取り入れた。その内容は主人公の男の子が登校途中に友人とけんかをする。それが原因となり仲間はずれにされる。そのことがきっかけとなり、翌朝精神的不調からくる腹痛が起こる。一日休んで体調がよくなるが、母親へ相談したことをきっかけとして、主人公の男の子はこころの健康について学んでいくというものである。配役は小学生の男の子を主人公とした。なお加えた内容としては「こころの状態の自己洞察」である。

パターンⅢの教育内容：精神医療現場の伝え方をわかりやすくするため、精神科看護師らによって、普段の相談業務などの体験談やロールプレイを用いた相談の場面を教室で再現した授業を構成した。

パターンⅣの教育内容：ストレスナーに対するこころの反応として「不安」、「怒り」に焦点をあてた。方法としては日常生活で上記のこころの反応が起こりうる場面を想定して寸劇を取り入れた。特に怒りについてはコントロールの方法を風船で表現した。また体験談としてこころの病をもつ当事者から、体験談として病状の説明、現在の日常生活、当事者からみて周りに求める当事者への対応などの内容を含めた。補足として抑うつなどの気分の変動やこころの病の罹患率、その対応などを補足的に伝えた。

(2) 基本となるⅠの教育効果評価を行った結果を以下に示す。

中国地方の A 県の小学校 2 校 (a, b) の 6 年生、119 人にアンケート用紙を配布し 113 人から回答を得た（回収率 95.0%）。a 小学校 64 人、b 小学校 49 人で、介入群は 70 人、対照群は 43 人、性別は男子 47 人、女子 66 人であった。教育前の結果から、悩みを相談出来る人数は「2～4 人」と答えた児童が全体で 55.9%と最も多く、次いで「5～10 人」（18%）、「1 人」（9.9%）、「0 人」および「10 人以上」（8.1%）の順であり、対照群と介入群に有意差はなかった（ $p=0.69$ ）。悩み・精神的に調子が「1 回以上」よくなかったと答えた児童は全体で 52.8%であり、「なかった」と答えたものは全体で 6.4%に過ぎなかった。なお両群の比

率に有意差は見られなかった (n=0.19)。教育前のストレスコーピング尺度の結果では「認知的回避」の平均値が 5.1 点と最も高かった。

教育前後の得点の比較から効果をみたところ「精神疾患についての知識」の総得点の平均値は介入前 9.9 点、後 14.0 点であり介入群のみ有意な差がみられた (t=-9.88、p<0.001)。中でも「うつ病」の介入群の平均値は得点の上昇が大きかった(介入前 3.1 点、介入後 4.1 点)。また「悩みを相談出来る場所についての知識」の総得点の平均値は、介入群のみ介入前後で有意な差がみられた (t=-4.10、p<0.001)。中でも「保健所」の介入群の平均値は得点の上昇が大きかった (介入前 1.7 点、介入後 2.4 点)。将来の早期介入につながる指標として、ストレスコーピング尺度の「サポート希求」の一項目では、平均値は介入前が 1.9 点、介入後 2.3 点であり、介入群のみ有意な差がみられた (t=-3.07、p=0.003)。

介入群では精神疾患についての知識、悩みなどを相談出来る場所についての知識の全項目で、介入後の得点の上昇がみられたことから、教育には知識を上昇させる効果があることが明らかになった。特に上昇がみられたのは、講義で扱った「うつ病」、や「保健所」の知識項目であった。またストレスコーピングの「サポート希求」の項目にも有意な変化がみられたことから、今後、対象者が悩みを抱えた際の相談につながる可能性が示唆された。今後は、より対象者の発達段階や地域特性を考慮した、参加型・体験型の教育プログラムの作成と長期縦断的な教育の効果評価が必要であると考えられる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[学会発表] (計 7 件)

- ① 篁宗一、幼児期を対象としたメンタルヘルス教育プログラムの効果評価、第 71 回日本公衆衛生学会総会、2012.10 月、山口
- ② Soichi Takamura、The effect and evaluation of a mental health education program on high school students for early intervention and prevention “the Seventh World Conference on the Promotion of Mental Health and Prevention of Mental and Behavioral Disorders、2012、10、Perth、Australia
- ③ 篁宗一、幼児期のメンタルヘルス教育プログラムツールの開発研究、第 31 回日本看護科学学会学術集会講演集、2011.12 月、p534、高知

④ Soichi Takamura、Factors related to distress and stress coping in junior high school students、15th World Congress of Psychiatry、2011.9、Buenos Aires、Argentina

⑤ Soichi Takamura、A Study on Factors of Suicide by Children and Adolescents、Sigma Theta Tau International、World Academy of Nursing Science、2011.8、Cancun、Mexico

⑥ 篁宗一、小学生に対するメンタルヘルス教育の開発と評価、日本看護科学学会、2010.12 月、北海道

⑦ Soichi Takamura、THE DEVELOPMENT AND EVALUATION OF A MENTAL HEALTH EDUCATION PROGRAM IN JUNIOR HIGH SCHOOL STUDENTS WITH SCHOOL NURSES、The 13th East Asian Forum of Nursing Scholars、2010.2、Hong Kong

[図書] (計 12 件)

① 李戴徳、篁宗一、他、心と社会、「中学校におけるメンタルヘルスリテラシー教育プログラム」、2012、vol.43(3)p82-88

② 篁宗一、(精神保健福祉白書 2012 年版) 大洋社、啓発活動—学校教育シンポジウム開催、2011

③ 篁宗一、他、精神看護出版、「今、メンタルヘルスリテラシーの向上をめざして」当事者との交流プログラムとまとめについて、精神科看護 2011.12. vol. 38 No. 12 (通巻 230 号)、2011、p54-59

④ 篁宗一、他、精神看護出版、「今、メンタルヘルスリテラシーの向上をめざして」こころの相談施設の紹介・説明と相談施設の見学およびシェアリングについて、精神科看護 2011.11. vol. 38 No. 11 (通巻 230 号)、2011、p60-65

⑤ 吉田光爾、久野光雄、篁宗一、他、精神看護出版、「今、メンタルヘルスリテラシーの向上をめざして」中学 1 年生の 1 時間目の授業「ストレスとこころの病」について、精神科看護 2011.10. vol. 38 No. 10 (通巻 229 号)、2011、p54-59

⑥ 篁宗一、他、精神看護出版、「今、メンタルヘルスリテラシーの向上をめざして」授業を実施するための準備について、精神科看護 2011.8. vol. 38 No. 9 (通巻 228 号)、2011、p55-61

⑦ 若林隆志、月森慎也、篁宗一、他、精神看護出版、「今、メンタルヘルスリテラシーの向上をめざして」感動を地域に広めていく伝道師になる、精神科看護 2011.7. vol. 38 No. 8 (通巻 227 号)、2011、p52-56

⑧ 大島なつめ、吉田光爾、篁宗一、他、精神看護出版、「今、メンタルヘルスリテラシー

ーの向上をめざして」メンタルヘルス教育プログラムの実際②、精神科看護 2011. 6. vol. 38No. 7(通巻 226 号)、2011、p50-54

⑨篁宗一、精神看護出版、「今、メンタルヘルスリテラシーの向上をめざして」メンタルヘルス教育プログラムの実際①、精神科看護 2011. 6. vol. 38 No. 6 (通巻 225 号)、2011、p52-56

⑩篁宗一、他、精神看護出版、「今、メンタルヘルスリテラシーの向上をめざして」学校にメンタルヘルス教育を導入する際の手順について、精神科看護 2011. 5. vol. 38 No. 5 (通巻 224 号)、2011、p56-64

⑪篁宗一、中外医学社、「ひきこもり状態」、治療と予防、ナースの精神医学 改訂 3 版 上島国利・渡辺雅幸編、2011、p200-2011

⑫篁宗一、他、精神看護出版、「今、メンタルヘルスリテラシーの向上をめざして」精神科看護 2011. 4. vol. 38No. 4 (通巻 223 号)、2011、p49-55

6. 研究組織

(1) 研究代表者

篁 宗一 (TAKAMURA SOICHI)

聖隷クリストファー大学・看護学部・准教授

研究者番号：60362878